

## 上海人の旅行形態

根橋 正一  
井上 寛

### はじめに

科学研究費補助研究プロジェクト「グローバル化時代のアジア諸国の観光に関する包括的研究」に関わる調査として、2004年9月6日から10日まで、上海市内在住の家庭を訪問し、現代中国社会における消費の状況やレジャーをテーマにしたインタビュー調査を行った。調査対象者は上海市内在住の20歳代から60歳代までの男女24名である。聞きとりインタビューの内容は、多岐にわたったが、本稿では、①初めての旅行体験、②最近の旅行体験、③印象に残った旅行体験に関するデータに注目して、インタビューの対象者が体験した旅行の形態の類型化を試みる。

本稿では、これらインフォーマントが、いつごろどのような旅行を体験しているのか、さらに世代によってどのように旅行形態に差異が見られるのか、という問題を設定する。それらを踏まえ本稿は3つの部分から構成されている。1章では旅行形態の類型について、2章では時代を軸とした旅行形態の変遷について、3章では世代別に旅行形態の相違について整理する。なお2章と3章については井上が執筆し、1章については、根橋との討論の上で井上が執筆を担当した。

### 1章 インフォーマントの基本属性と旅行形態

まず、インフォーマント24名の基本属性について整理する。

表1 インフォーマントの基本属性

ケース番号	性別	年齢	職業	学歴	収入	家族
ケース1	女性	32歳	広告会社	高中卒		本人, 夫
ケース2	女性	51歳	街道弁事処			本人, 夫, 舅, 息子
ケース3	女性	43歳	居民委員会		8000元	本人, 夫, 息子

ケース4	男性	53歳	マンション保安員			本人, 妻, 息子
ケース5	女性	56歳	人力資源公司			本人, 夫, 娘
ケース6	女性	53歳	上海任明理化工程		7 - 8万	本人, 夫, 娘
ケース7	女性	60歳	退職	大学卒	5000元	本人, 夫
ケース8	女性	24歳	会計, 修士課程		3000元	本人, 母, 姉
ケース9	女性	59歳	退職			本人, 夫, 娘
ケース10	女性	40歳	私営企業	高中卒	年10万元	本人, 夫, 息子
ケース11	女性	50歳	退職			本人, 夫, 娘
ケース12	男性	23歳	電信局	中専卒	年2万元	本人, 母, 祖母
ケース13	男性	51歳	香港系企業		4000元	本人, 妻, 娘
ケース14	女性	66歳	小学校教諭(退職)	大学卒	4000元	夫婦
	男性	68歳	中学校教諭(退職)	大学卒		
ケース15	男性	53歳	機械関係工場			夫婦, 娘
	女性	50歳	居民委員会			
ケース16	女性	38歳	幼稚園教諭(退職)	中専		本人, 夫, 息子
ケース17	女性	20歳	大学生			本人, 父, 母
ケース18	女性	59歳	退職		800元	本人, 弟, 義妹, 孫
ケース19	女性	52歳	街道弁事処	高卒	1000元	本人, 夫, 息子
ケース20	女性	46歳	街道弁事処		800元	本人, 夫, 息子
ケース21	女性	69歳	退職			本人, 夫
ケース22	女性	56歳	主婦			本人, 夫, 母
ケース23	男性	44歳	自動車	専門卒	年5万元	本人, 妻, 娘
ケース24	女性	20歳	パソコン	専門卒	450元	本人, 母

## 2. 旅行形態

本調査では、インフォーマントの語った初めての旅行、印象に残った旅行、最近の旅行についてのデータから、旅行形態を次の4つに分類する。すなわち家族旅行、職場旅行、地域旅行、同好グループ旅行である。

### 家族旅行：探親・親族訪問

家族旅行のなかには「探親」とよばれる親族訪問の旅がある。とりわけ、1970年代以前には、職場の都合などにより、夫婦あるいは家族が離れて生活するケースも多く、それにともない家族を訪問する特別な休暇が与えられていた。この事例としてケース18, 20, 22がある。80年代以降になると、こうした制度を利用した旅行ばかりではなく、自由な地域移動が可能になった結果、別れて暮らす夫婦や親族を訪問する旅行が活発化した。この事例としてケース20がある。さらに、出国ブーム以降には、外国に移住する家族、親戚を尋ねる旅行も増えている。今回の調査では、家族旅行がもっとも頻繁に語られ、その目的や内容も多岐にわたった。

### 職場旅行：社員旅行・出張旅行

勤務先の都合や企画による同僚たちと、あるいは一人での旅行である。以前、個人や

家族で旅行する機会が極めて少なかった時期、人びとの旅行体験の多くが仕事や出張、社員旅行といった形態で行なわれていた。ケース6と19はこのような旅行について語っている。現在では、業務の国際的展開にともない、海外へのビジネスの旅について語る者もいた。

地域旅行：居民委員会の旅行

日本で、われわれが日常的に目にする町内会や商店街の仲間の旅行や近隣の主婦たちの旅行など地域の旅行について、上海で聞くと、私的なものは皆無であり、ほとんどは居民委員会という町内会組織が主催する高齢者対象の旅行について語られた。居民委員会幹部が語った地域旅行の状況（ケース3）とそれへの参加状況について述べたケース（ケース15）とがある。

同好者グループ旅行

1990年代前半の上海における調査において、日本によくある登山や釣り、ゴルフなど同好者のグループ活動や組織があるか聞いたが、当時そのような市民的な活動や私的な組織について語られることは皆無であった。しかし、今回の調査においては、趣味の旅行について語る者や、登山や旅行の同好者グループでの活動を述べるインフォーマントがいた。つまり、参加したツアーで知り合った人と友人になりさらに旅行したり（ケース22）、登山やキャンプなどをインターネットで募った友人と旅行するケースが現れたのである（ケース8）。

以上4種類の旅行について語ったインフォーマントを示したのが表2である。「最初の旅行」、「印象に残っている旅行」、「最近の旅行」として語られた旅行のうち、家族旅行がもっとも多く、家族旅行の重要性を知ることができる。

表2 旅行形態からみた分類

	ケース (番号)																				
	最初の旅行				印象深い旅行				最近の旅行												
家族旅行	(1)	(3)	(4)	(10)	(4)	(11)	(13)	(1)	(2)	(3)	(4)	(18)	(21)	(22)	(14)	(15)	(16)	(6)	(7)	(14)	(15)
職場旅行	(6)	(7)	(11)	(12)														(5)			
地域旅行																		(16)			
同好グループ旅行	(17)				(12)	(24)												(8)			

## 2章 時代別旅行形態の変遷

2章では旅行体験に関するインタビューから、時代によって旅行形態がどのように変化したかに着目し整理していく。ここで、時代区分としては、70年代、80年代、90年代以降と3つの時期を設定した。これはまったく便宜的なもので、今後の分析のためにどのような区分が有効であるのかを探るためのものである。1節では、1970年代、2節では1980年代、3節では1990年代以降の旅行形態についてまとめる。

### 1節 1970年代の旅行形態

1970年代の旅行の記憶を語るケースとして、印象深い思い出を語る人が多いが、それは「探親」とよばれる家族訪問の旅行であった。職場旅行、地域旅行について語る人は多くはない。ここでは、探親の旅行を3ケースあげることができる。

ケース18：現在59歳のこの女性は広州の親戚を訪問する旅行を体験している。10歳代である1970年代に当時、彼女は倉庫管理の仕事をしており、広州へはお見舞いをするために3—4日間かけて鉄道でいった。生まれたときから上海に住んでいたこの女性にとってこの旅行は印象深いものであった。

ケース20：現在46歳の女性が、19歳で電動工具の会社に就職して間もないころに体験した印象深い旅行体験である。当時は父、母、兄、兄嫁との5人家族であったが、1977年、母、兄嫁の3人で杭州在住の兄嫁の親戚を尋ねるために旅行したのである。「親戚の家に泊まることができ、風光明媚なところで景色がよく観光スポットをめぐり4日間旅行した」と語っている。

ケース22：56歳女性が14歳のときに体験した旅の記憶である。上海出身のこの女性が体験した初めての旅行は南京の親戚訪問である。「南京へは妹とおばの娘（10歳）と夏休みを利用して行った。まだ小さかったので家の人にはほめてくれたのを覚えている。鉄道を利用して行った。」と当時の記憶を語ってくれた。

### 2節 1980年代の旅行形態

1980年代になると、それ以前よりも語られる旅行形態が多様化する。すなわち、70年代からの職場社員旅行や探親旅行ばかりでなく、さらに出張や家族旅行で海外に出かけるケースもみられるようになった。

#### 1. 職場旅行の増加

1980年代の旅行の記憶を語るインフォーマントの多くは、職員旅行についてであった。

ケース6：この53歳の女性は80年代当時から上海任明理化有限公司で会計をしている。1980年代になると会社で旅行へ行くようになったと語っている。

ケース19：現在52歳の女性が建築会社に勤務していた当時の記憶である。廬山には、会社の旅行で行った。50人くらいで5日間の旅行であった。行きは揚子江を船で、帰りは列車で帰ってきた。景色のよいところなので山の景色を見たりした。インタビューより、この女性が旅行に出かけ始めた時期と重なり、印象的な旅行であったことがわかる。

## 2. 家族旅行

80年代になると、新婚旅行が家族旅行の新しい形態として登場し、これについて2名が印象深い旅行として語っている。

ケース23：44歳男性が、18年前に婚約したころの旅行体験を語っている。妻とは幼なじみで83年ごろから結婚前提で交際するようになる。この男性は、機械専門学校を卒業し、1980年に就職した。なお、会社は国営から日本との合弁企業に変化している。新婚旅行の体験としては、1986年ごろに夫婦で北京に行き1週間くらい滞在している。その後も南京、蘇州、杭州へ夫婦で旅行している。

ケース3：43歳女性が、16年前に出かけた旅行の記憶を語った。この女性にとって初めての旅行が86年頃、27歳の時に行ったこの北京への新婚旅行であった。当時工場勤務で給料が58元だったなか、費用が2000元かかる旅行をした。さらにこの時には泰山にも行った。中国の伝統的な結婚形態としての弁酒をしない代わりに新婚旅行をするという当時としては新しいスタイルの旅行であった。

この時期、はじめての家族旅行を体験しているのはケース4であった。

ケース4：53歳の男性が、1983年当時、製靴会社に勤務していたころ、給料が300—400元であった時代の旅行である。「記憶にある中で、最も古い旅行は21年前である。子供が小さい頃に最初の家族旅行をした。この時は蘇州へ行った。日帰りだった。旅行会社の団体旅行（青年旅遊団）で行った。知り合いの家族何家族かと一緒に参加した。」と語っている。

ケース4のように資金繰りに苦労しながら費用を積み立てて旅行した者もいる。個人的な旅行をするようになったり、休暇が増え旅行できるようになったのが80年代の旅行形態の特徴といえるだろう。

## 3節 1990年代以降の旅行

この時期の旅行については、「印象的な旅行」「最近の旅行」として、もっとも多くが語られており、その内容も多様である。また、旅行について楽しい思い出とともに語られるものとしては、海外旅行の出現である。それは、会社での仕事としての出張のみならず家族での海外旅行が多出するようになる。さらに趣味的な同好者グループ旅行の登場も特筆される。

## 1. 職場旅行

職場旅行に関しては、海外出張について2人が語っている。海外出張は彼らにとって印象的でもあり、誇りを感じる体験のようである。

ケース7：60歳のこの女性は、上海外語学院を卒業後、機械設備輸入会社に就職し、5年前に退職している。その学歴を生かした職場に在職中の海外出張経験を語っている。最初の海外旅行は92年のドイツである。当時はまだ海外旅行は自由化されていなかったが、この時はドイツで博覧会があり、会社の取引で行った。自由に海外に渡航できなかった時代の体験はかなりインパクトの強いものであったに違いない。

ケース23：日本との合弁企業である自動車修理会社に勤務する44歳の男性は、最近、タイ、シンガポール、香港、そして日本へ出張や会議で訪れ、さらに東京や富士山の観光もしている。彼は日本の印象を「日本人は悪くない、交通事情がよい」と評価している。

## 2. 家族旅行

1990年以降の家族旅行は、目的地を海外とするもの（ケース3, 6, 7, 20）、夫婦旅行（ケース1, 2, 13, 14, 16）に大別することができる。

### (1) 海外旅行

90年代以降、家族旅行で海外に出かけるケースが増えた。ケース3, 20などがそれである。

ケース3：43歳の女性が、香港資本の会社で香港勤務をしており単身赴任している夫を訪問するケースである。本人は現在退職し、居民委員会の民生幹部をしている。「専業主婦ではつまらないのでボランティアでやっている」と語っており、経済的に余裕があることが伺えよう。香港には毎年3回、時には4回ぐらい訪れており、今年は7月6日に香港を訪ねている。

ケース6：現在53歳の女性は18歳の娘と、5年前にはタイ、香港、廈門へ、今年は韓国へ旅行した。「韓国よりもタイが特色があってよかった。海でヨットに乗ったことが印象的だった。」と語っている。

ケース7：60歳の女性が2年前の海外旅行の記憶を語っている。一番印象に残っているのは2002年のカナダ旅行である。娘夫婦がオタワにいるので家族訪問で行った。夫婦でカナダを訪れ、娘夫婦と4人でカナダを旅行した。この女性は、会社の出張でドイツにも旅行している。インタビューの中で、団体旅行では、イタリアに行くなら1日ではなく2日ぐらいゆっくりしたいと、そのなかで自由時間を多くして欲しいと語っている。

ケース20：現在46歳の女性で、33歳のとき香港が返還される以前に旅行したケースである。1991年に香港に直系の姉を母と2人で訪問した。姉に案内してもらい、ショッピング

ングセンターに行った。申し込んでから時間がかかった。と当時の海外旅行の困難さを語るインフォマントであるが、インタビューの中で「香港にはびっくりした」と衝撃的な印象を語っている。

## (2) 夫婦旅行

夫婦での旅行について話したケースはケース1, 13, 14, 16の4ケースである。すべて定年退職後の旅行である。

ケース1：33歳の女性は98年に成都から上海に移住した。姉が上海で衣料品店を営んでおり呼ばれて出てきたのである。前夫はこの衣料品店で知り合い、現在の夫とは遊びで知り合ったと語っている。夫と共に、教科書と教材のCDソフトを販売する会社を営んでおり、2000年頃から年に1回ぐらい旅行をするようになった。この理由を経済的に生活レベルが上がったからと語っている。旅行は、仲のいい従業員と大明山、臨安に出かけたことがある。

ケース13：国際貸運代理会社に勤務する51歳男性は、「妻が定年になり淋しいので、北京へ連れて行った。北京に行った理由は、私は北京へは行ったことがあったが、妻へのプレゼントのつもりで行った。北京へは飛行機を利用し、北京では、妹が勤務する自動車会社の宿泊施設や自動車を借りて旅行した。」と語った。

ケース14：共にもと教員で66歳女性と68歳の男性夫婦のインタビューである。「退職後は自分たちで私的な夫婦2人旅行を楽しんでいる。多くは旅行社主催のグループ旅行に参加する。息子達はグループ旅行でなく、夫婦二人で自分で手配して、自由な旅行に行っている。今年7月に夫婦二人で、桂林・張家界・貴陽への旅に参加した。城皇廟旅行社の主催で、600人の大集団旅行であった。鉄道を貸しきり、現地到着後は20人グループで、バス旅行になる。上海からの添乗員に加え現地ガイドがついた。11日間の旅行であったが、上海から現地までの鉄道移動に3日間かかり、張家界に到着してからは各都市で3—4日ずつ観光した。観光は貴陽では有名な滝があり、桂林では特徴のある山水画のような山々がある。離江の船下りをした。お土産は少しだけ、毛尖茶などを少しだけ買った。この時の旅行費用は、ふたりで5000元、旅行中の遊びの費用や食費、土産や地図の購入などに使った。高価な買い物としては漢方薬、「天馬」800元だった。この薬は上海ではなかなか手に入らなくなり、現地で買うことを最初から決めていたので、自由時間にその店を探した。事前にその店についての情報を持っていった。毎年1回は遠方までの旅行に参加し、2—3回は近場へ旅行するようにしている。もちろん毎回夫婦2人である。最近出かけた近場旅行は、七宝で、120名ぐらいの団体に2台のバスで行った。参加者は皆退職した人たちであった。」と語っている。

ケース16：夫53歳、妻50歳の夫婦の体験である。夫は上海生まれで1968年以来機械関係工場に勤務、妻は夫と同じ工場に勤めていたが退職し、その後は居民委員会で社会工

作に従事している。娘は23歳、会計の仕事をしている3人家族である。毎年1度は蘇州に行き、先祖の墓を参るのが主な目的で、観光も兼ねて4月の清明のころ、親戚一同10人ぐらいで出かける。年によってバスもしくは列車で行く。墓は20年前に購入したもので、そこには上海人の墓がたくさんあって、清明の頃には上海からの墓参者達でにぎわっている。

ケース2：夫がドライバーをしている51歳女性。看護師を辞め、現在は街道弁事処の社会保障中心で働いている。夫の仕事を生かし、去年の正月、家族一緒に南京へ行った。これは自分たちで車を運転して行った。車は姪のものであり、青浦、朱家角など郊外をドライブしている。去年は3—4回出かけた。

### 3. 同好グループ旅行

最近みられるようになった新しい旅行形態である。本調査では、登山好きのグループ旅行（ケース12）や旅行中に気のあったツアー同行者のケース（ケース22）がある。

ケース12：23歳女性。上海市郵電学校（中専）を卒業し2000年から電信局で動力管理の仕事をしている。本人、母、母方祖母の3人家族である。父はコンピューター修理の仕事のために長寧区に一人で住んでいる。母はすでに退職している。1カ月に1、2回、土日に旅行する。行き先は上海に近いところであり、ネット上の友人と一緒に行くというのは、ネット上にそのようなサイトがあり、最初に自分の計画を書き込み、それに賛同したみんなで遊びに行く。行くときには見ず知らずの人もいるが、一日遊ぶと友達になり、その後は連絡を取り合う。登山で四川にも行ったことがある。四川の姑娘山（5003m）へ行った。出発し戻るまで10日間かかった。ネット友達10人ぐらいで行った。10人中、女性は2人だった。こういうことには男性の方が多い。費用は2000元ぐらいだった。

ケース22：56歳女性は、夫が不動産業を営んでおり、年収20—30万元ある。本人は90歳になる本人の母親の介護をしながら旅行を楽しんでいる。旅行イコール遊びで、旅行は見聞を広めてくれるので好きである。今は退職したので毎年旅行の計画を立てている。息子たちも賛成してくれて経済的に援助してくれる。旅行を通じてたくさんの友達もできる。長江くんだりと一緒にいった人とも連絡を取って遊んでいる。

## 2章のまとめ

時代別の旅行形態を整理すると表3のようにまとめられる。

1990年代の旅行は、探親や家族訪問といったものが多かった（ケース18, 20, 22）。1980年代になると新婚旅行（ケース3, 23）や個人での旅行があらわれ、さらに90年代以降になると海外出張のみならず海外旅行があらわれる。いっぽう新しい形態として同好者グループで出かける旅行がみられるようになった。



表3 時代別の旅行形態 (ケース番号)

	70年代	80年代	90年代
職場		社員旅行 (6)	海外出張 (7)
家族	探親 (18) (20) (22)	新婚旅行 (3) (23) 旅行社主催旅行 (4) 個人旅行 (6)	海外旅行 (3) (6) (7) (20) 夫婦旅行 (1) (2) (13) (14) (16)
同行者グループ			登山 (8) ツアー (22)

### 3章 世代別旅行形態の相違

3章では、世代による旅行形態の違いについて、未就労世代、就労世代、退職世代に区分し旅行形態を整理する。

#### 1節 未就労世代

ここでは、子供時期から学生時代にかけての旅行体験を語ったケースを整理する。

現在大学生であるケース24では、高校時代の遠足の体験が語られている。

ケース24：上海外国語大学に通う20歳の女性である。家族構成は父・母・本人である。1年前、高校の修学旅行で黄山に鉄道で行ったのが初めての旅行である。30人くらいのメンバーで風景、山や湖を書くためにクラブ活動で出かけている。そのなかでも光州の大湖がきれいだったと印象を述べている。上海を出発して黄山で降りた。そこからバスに乗り換えた。旅館では4人部屋に泊まり友人と徹夜で話した。翌日は絵を描き、1週間ほど滞在したなか、3.4日絵をかいて、旧跡などあちこち遊びに行った。費用は1200元かかったが父が払った。

ケース8：24歳の女性は会計の仕事をしてながら大学の修士課程に通う。今年の春節、学生時代の同級生たちと鉄道で4日間杭州へ行った。費用は1人1000元程度だった。この旅行では、年越しをし、観光地へ行ったり、花火をあげたり、寺廟に参拝した。普通、春節に旅行に行く人は少ない。今年は自分の本命年(24歳)なので行った。本命年とは自分の干支、つまり年女のことである。本命年にはどこかお参りに行かないと運が悪くなるという。もちろん、気にする人もいるし、気にしない人もいる。同級生は全員本命年なので、遊びを兼ねて行った。泊まったのはホテル(賓館)。

宿泊施設については、どこに泊まるかはその人の経済条件による。収入の低い人は旅館や招待所に泊り、お金がある人は賓館に泊まる。また、例外的に宿泊施設を指定される場合もある。宿泊施設が賓館しかなければ、そこへ泊まるしかない。

最近の新しい傾向として、インターネット上で知り合った同好の志の集まりによる趣味の旅について語ったケースもある。

ケース12：旅行へは同級生と行くときも、インターネット上で知り合った友人と行く

こともある。ネット上の友人と一緒に行くというのは、ネット上に遊びのクラブがある。ホームページがあり、最初に自分の計画を書き込み、それに賛同したみんなで遊びに行く。行くときには知らない人もいるが、一日遊ぶと友達になり、その後は連絡を取り合う。

インタビューより、未就労期世代の旅行はアクティブであることがわかる。

## 2節 就労期の旅行

就労期の旅行には、職場旅行（ケース5, 15）と家族旅行（ケース3, 4, 11, 16, 23）とがある。

### 1. 職場旅行

就労期における職場旅行について語るインフォーマントは意外に少なく、語ったとしても多くが語られていない。出張のついでに観光や社員旅行がおこなわれ、70年代、80年代前半までは上海の人びとにとっても旅行の中心であったと考えられる。ケース5は人材斡旋業を営んでいる56歳女性のケースである。形式的な旅行であり、思い出や印象に関しては語られていない。

ケース5：56歳の女性は、人力资源公司以リストラされた人に仕事を紹介している。この会社は国家と契約しており紹介の件数に応じて手数料をもらえる。会社の規程で年に1回職員を団体旅行へ連れて行く。費用は会社が半分を負担し、残りは労働者のそれぞれが出費する。また、幹部7人の旅行も行っている。今までに北京、天津、南京などへ行った。これは視察旅行であり、行き先は上海市から指定される。また費用はすべて政府の負担である。

ケース15：機械関係工場勤務の53歳男性の記憶である。出張旅行や慰安旅行がある。会議のために出張すれば会議終了後にはそこで少し遊んでくる。その場合は公費で行ける。仕事柄沿海部はほとんど、例えば青島なんかには行った。青島で会議があれば1泊2日ぐらいの日程になる。工場主催の慰安旅行は何十人もで一週間程度の旅行に行く。単位全体で行くときもあるし、系統、部門などで行くこともある。無錫・杭州・黄山・廬山などに行った。慰安旅行は会社の福利部門が計画するのだが、時期が決まっているわけでもないし、毎年というわけではない。突然思い出したように、多分担当者の思いつくままに計画されるようだ、という。要するに労働部門の異なるインフォーマントたちにはどのように決定されているのか分かってはいない。同じ工場で働いていた妻によれば、男性職員は毎年北京で開催される工業展覧会に参加するために出張していた。女性にはそのチャンスがあまりなかった。現在では、北京に限らず各地で展覧会が開かれるようになった。

## 2. 家族旅行

職場旅行とは対照的に、就労期の旅行に関しても家族旅行の思い出が多く語られている。旅行が自由になったこと、休日の増加や休暇が容易に取れるようになったことが家族旅行を増加させ、印象深い旅行体験が増えたといえよう。ここでは就労期世代の家族旅行について整理する。

ケース23：3人家族の44歳男性は、妻が自動車修理会社に勤務しており、忙しくて休暇が取れないため、2001年、本人と娘2人で青島に行っている。娘の見聞を広めることが目的である。

ケース3：夫が香港へ単身赴任しているため、43歳の女性は高校生の息子と旅行している。今年は杭州、去年は10月頃黄山に行った。深圳・広州にも行ったことがある。いつも息子と2人で行く。息子の学校の休日に合わせて旅行している。

ケース4：一番印象に残っている場所は18年前に旅行した杭州だ。自然の風景もあるし、家族3人で一緒に遊ぶのは一番快い。基本的には家族3人で出かけるのがよい、と家族旅行を重視する発言もみられた。

ケース11：もっとも印象に残っているのは、97年にでかけた三清山であると語ったのは50歳の女性である。当時17歳の娘と中学校で物理を教えている夫との3人で参加した。正確には、この旅行は夫の職場の仲間との旅行であり、それぞれが家族を連れて行った。費用は3000元かかったが、職場からの補助が一家庭700元あった。参加者は総勢26人だった。自動車で行き、現地で車とガイドを貸し切りで雇い、案内してもらった。景色がよかったことが印象付けられる理由であった。

ケース16：広東省で幼稚園教諭をしていた現在38歳の女性。97年に結婚のため上海へ。現在夫と6歳の息子の3人暮らしである。家族旅行は3人で、割と近場に、1週間以内の旅をする。1年前には広東の故郷新泰と広州に行ってきた。故郷までは列車で20時間かかる。費用は2000元程度かかった。故郷なので宿泊するところもあるし、家族や親戚友人もいるのであまり費用はかからなかった。また、夫は新聞編集の仕事をしており、3—4年に1回1ヵ月程度の有給休暇がある。前回は紹興に行き、次回は来年10日から半月ぐらいの日程で、家族3人で北京に行きたいと考えている。宿泊先や観光などについては、すべて自分たちで手配して楽しもうと思っている。仕事や会社のことをすっかり忘れることができる。

## 3節 退職後の旅行

退職後の旅行は、夫婦で旅行社主催の団体旅行へ参加するパターン、夫婦で家族、とくに子供たちを訪ねる旅行などがある。

まずはじめに、旅行社主催の団体旅行に夫婦で参加するケースである。

ケース14：ともに教員を退職したこの夫婦は旅行前の情報収集を楽しんでいる。旅行に行く前には当地のことを研究する。すでに昆明の本を購入した。やはり旅行は目的がないとつまらないから。最近は旅行雑誌など、綺麗なグラビア入りの旅行に関する記事のたくさん掲載されているものが出ているが、それを買うことはない。一番利用するのはインターネット情報である。現地の天気予報・災害情報・旅客数の多少に関する情報・観光スポット・土産などについての情報などを、出発前にダウンロードして持っていく。旅行へは今年7月に夫婦二人で参加し、桂林・張家界・貴陽への旅に参加した。城皇廟旅行社の主催で、600人の大集団旅行であった。

さらに、ケース7と21では海外旅行に行こうとするケースである。

ケース7：60歳の女性は、退職後その実績を買われ、現在でもアメリカ資本の会社で週2回働いている。その関係で、最近、オーストラリア、ニュージーランドへ行こうと思っていたが時間がなくていけないようなので、ヨーロッパ5カ国へ行くことにした。来年は日本へ行くつもりである。

ケース21：69歳女性は年金生活を送り、夫は建設会の学校で働いている。アメリカに住んでいる娘からヨーロッパ旅行を勧めているが、テロが怖い。前は行きたかったが安全面が心配である。

積極的な旅行が多い中で、次のような消極的動機も語られた。

ケース7：娘とその夫を訪問する旅行で夫とカナダを旅行している。本人は娘からカナダに来いと呼ばれているが「私は行きたくない」と語っている。

ケース9：大專を卒業し、上海造紙公司を退職した59歳の女性は病氣療養中で、夫は仕事の関係で台湾にいる。彼女は株取引を趣味としているが、旅行には行かない、遠くにはいかないと語っている。

ケース3では、居民委員会の旅行の実態について語られている。

ケース3：居民委員会の旅行は年に2回旅行がある。行き先は、杭州、蘇州などわりと近いところだ。費用は自分で払う部分もあるが、援助の部分もある。ここの旅行では上海養蜂廠がお金を出してくれている。この会社は健康食品の会社であり、援助するのは老人たちに対するPRのためだ。この会社はお金ではなく送迎バスを出してくれている。行くと、高齢者の健康のための講習会があり、商品を紹介したりする。老人たちにとってはとっても楽しい。とてもサービスがいいし、送迎バスがあるので楽し。90歳の高齢者も参加する。

ケース15の妻は退職後、居民委員会の幹部となっているが地域旅行の実際について次のように述べている。居民委員会主催の旅行はあるけど、そんなに回数は多いとは言えない。参加するのは年齢のいった老人ばかりですから、1日程度のバス旅行ぐらいだ。今年6月にはバス1台で、費用はそれぞれ自分持ちで、郊外の朱家閣鎮へ行った。

以上より、これら地域旅行は日帰り費用もかからず高齢者が参加しているがわかっ

た。

### 3章のまとめ

世代別の旅行を整理すると次のようにまとめられる。

未就労期は家族だけではなく、学校の友人やインターネットで知り合った友人などと出かけるアクティブな旅行の思い出を語るケースが多い。就労期では、会社での旅行や会社の仲間との旅行（ケース5, 15）があるが、思い出として多く語られたのは家族旅行であった。この世代では子供を中心にした旅行が見られた（ケース3, 23）。さらに退職後は、自由に時間を使えることもあり、旅行者の主催する団体旅行に参加するケース（ケース14）や夫婦で海外旅行に参加するケースもみられた。

### むすび

本稿では、各インフォーマントのさまざまな旅行体験について、時代別、世代別に整理することを試みた。ここで注目したいのは中国における高齢者の旅行である。第3章において、退職後の高齢者が旅行者の主催するツアーに参加するケースや、夫婦で旅行するケースが1990年代以降にみられるようになってきたが、いっぽうで経済的な理由や健康的な理由で旅行しない高齢者もみられた。これに関して、旅行のみならず中国の高齢者の生きかた全体に着目していくことが、今後の課題である。